

ウッドフローリング
製品・施工ガイド

ご採用前・施工前に
必ず本ガイドを
ご一読お願いします

INDEX

製品について

01・02

施工ガイド

03～08

お手入れ方法

09

保証について

10

木と暮らす

無垢の木は使っていくうちに経年変化により深みを増していきます。

使用していく中での傷も味となっていき長い間使って頂けます。

化粧シートや突板フローリングとは異なり、無垢の木は肌触り・温度感・硬さ・調湿が

優しく日々の生活に豊かさをもたらしてくれます。

一方で、無垢の木は自然特性として湿度に応じて伸縮し、

乾燥や日射によるヒビ割れ・変色などが生じる可能性もあります。

木と暮らすという事はこのような自然特性をご理解頂いた上で、木のある生活を楽しんでください。

About Products / 製品について

無垢(天然木)フローリングをお選びになる前に

- 「天然木」は調湿機能を持ち、無垢や厚挽きのウッドフローリングは気候や環境により伸び縮みを繰り返しています。
- 「天然木」である以上、ヒビ割れ・反り・曲がる・空く・ヤニがといった自然素材特有の現象が現れる可能性があります。特に、乾燥・湿潤・温度差・日射の激しい設置場所では注意が必要です。また、1枚1枚色味や木目が異なり節や濃淡バラツキ等があるのが「天然木」の味でもあります。
- 「天然木」は紫外線や経年変化により色が変化します。変化は樹種により異なり色が濃くなる樹種、赤味が増す樹種など様々です。
- 土足でのご使用をご検討の場合、ピンヒール等による損傷、擦り傷、引っ掻き傷などが発生します。
- 虫害について：無垢フローリングにはごく稀にキクイムシ等が発生することがあります。生産時の人工乾燥の工程で大半は処理できますが薬剤の殺虫ではない為、完全ではありません。また、国内にもキクイムシ等が存在するため、何処かで卵を産み付けられる可能性も考えられます。キクイムシ等の虫害は天災のため、万一虫害に遭われた際も保証し兼ねます。
- 「天然木」のフローリングは、一般的に多く使われている突板フローリングや木目調シートフローリングと比べてメリットもありますが、デメリットもあります。

	無垢フローリング	厚挽きフローリング	突板フローリング・木目調シートフローリング
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ◆天然木の豊かな表情 ◆素材感・肌触りを楽しめる ◆経年美を楽しめる ◆長い間使用できる 		<ul style="list-style-type: none"> ◆安価 ◆動きが少ない ◆ヒビ割れなどが無い ◆汚れ・傷に強い
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ◆動く・反る・ヒビが生じる可能性がある ◆汚れ・水に弱い(オイル塗装) ◆強い日差しや乾燥に弱い 		<ul style="list-style-type: none"> ◆厚いコーティングで素材感はない ◆破損すると基材が見える ◆経年劣化し長い間は使えない
向いている方	<ul style="list-style-type: none"> ◆木が好きな方 ◆細かい事は気にしない方 		<ul style="list-style-type: none"> ◆木目であれば拘りは無い方 ◆掃除が気になる方

低温床暖房対応

- 低温床暖房対応フローリングのご使用をご検討の場合、**必ず熱源が55℃まで、フローリング表面温度が27℃以下**でご使用ください。
- 床暖房を使用していない場合よりも湿度変化の負荷がフローリングにかかる為、フローリング間の隙間の変化・反り・ヒビ割れが生じる場合がありますので予めご了承ください。
- フローリングや下地の伸縮によりキシミ音が出る事がありますが、素材の性質上やむを得ない現象ですので予めご了承ください。

ウッドフローリングとの付き合い方について

<フローリングについて>

- 四季の変化・空調による湿度変化により伸び縮みを繰り返しています。その影響によりヒビ割れ・反り・フローリングの伸縮が生じる事を予めご了承ください。
- 過度の乾燥によりヒビ割れや反り、伸縮による隙間が生じる原因となりますので湿度は40~60%を保ってください。
- 長期の不在などで換気が出来ない場合も湿度がたまり、反りの原因となりますのでご注意ください。

<水気について>

- 水分は、毛羽立ち・白濁・カビ・ヒビ割れ・反りの原因となります。水などをこぼした場合は素早く拭き取ってください。
- 日常的な水拭きでのお手入れは避けて下さい。
- キッチンや洗面脱衣所などの水周り・雨水が吹き込む窓周り・玄関・結露が生じるサッシ際などは、ヒビ割れ、反り、変色などの不具合を生じ易く劣化する可能性がありますので十分な換気とご配慮をお願い致します。
- 濡れたタオルなど水気を多く含むものをフローリング上に放置すると不具合が生じる場合がありますのでご注意ください。
- 醤油・コーヒーなど色の濃い液体や、ジュース・果物・洗剤などの酸性やアルカリ度の高い液体及び個体は、シミや変色・色落ちの原因となります。素早く拭き取ってください。
- 土足で使用される場合は、使用期間に関わらずヒール傷・小石などによる傷、雨水の影響による膨張・反り・ヒビ割れなどが避けられない事をご了承ください。

<直射日光について>

- 長時間にわたり直射日光が当たると、色むらやヒビ割れが生じ易くなります。カーテンやブラインドなどで日光を遮ってください。

<家具・家電について>

- ピアノなど重たい家具を置く場合は、板を敷いて荷重を分散させたり、下地の補強等が必要になる場合がございます。
- テーブルや椅子を引きずるとフローリング表面を傷付ける原因となりますのでフェルトなどの緩衝材を貼ってください。
- キャスター付きの椅子はフローリング表面を破損する恐れがありますので部分的にマットを敷くなどの配慮をして下さい。
- 熱を持つ家電(冷蔵庫の熱風やアイロンなど)を置くとヒビ割れ等の不具合を生じますので置かないで下さい。

<暖房器具について>

- 温風ヒーターや換気システム、全館空調システムなどを使用する場合、吸排気の風が床面に直接当たらないようにマットを敷くなど配慮して下さい。過度の乾燥により材の収縮・反り・割れの原因となります。
- ホットカーペットやコタツを使用するとヒビ割れや隙間などの不具合が生じる場合があります。

<低温床暖房対応フローリングについて>

- 床暖房設備は低温式床暖房 **(熱源温度55℃まで)** をご使用下さい。
- フローリングの表面温度は **27℃以下** となるように温度調節コントローラーで調節し、低温運転をして下さい。
- フローリング上に放熱を妨げる物を絶対に置かないで下さい。**
 - 「こもり熱」により反り・ひび割れ・剥離が生じる恐れがあります。
 - (例) ラグ・カーペット・座布団・座椅子・脚の無い家具・設置面が大きい家具・植物の鉢等
- 室内湿度は40~60%を保ってください。エアコン等を併用される場合は必ず加湿器などを使用し調湿して下さい。
- ピアノや食器棚などの重量物を置かないで下さい。熱による歪みや変形が生じる恐れがあります。重量物は床暖房以外の場所に置き、保護板などを敷いてご使用下さい。
- 温風ヒーター・ストーブ等、フローリング面に熱が当たる暖房器具、コタツを使用しないで下さい。
- 床暖房を使用していない場合よりも湿度変化の負荷がフローリングにかかる為、フローリング間の隙間の変化・反り・ヒビ割れが生じる場合がありますので予めご了承ください。
- フローリングや下地の伸縮によりキシミ音が出る事がありますが、素材の性質上やむを得ない現象ですので予めご了承ください。

Construction Guide / 施工ガイド

天然木の性質上、保管状況や使用環境によって、反り・割れ・狂いを引き起こす場合があります。必ず本ガイドをよくお読み頂き、天然木の特徴をよくご理解の上、施工してください。
製品に不具合があった際は必ず施工前にご連絡下さい。施工後の不具合は保証し兼ねますのでご了承下さい。

使用環境の確認

下記のような環境では床下などの湿度が著しく上昇し、フローリング材の以上な膨張による不具合の生じる可能性が高くなる為、施工の際は十分な配慮と対策を施してください。条件によってはフローリングの使用可否を再検討して下さい。施工後に「反り」「突き上げ」「床鳴り」などが生じる恐れがあります。

- 低湿地・沼地・田んぼに囲まれた場所や海辺、湿気の多い土壌地域。
- 森林の沢地や地下水が豊富な場所。
- 床下の換気口が小さい現場。（建築基準法施工例：外壁の床壁部に、長さ5m以下毎に300cm²以上の換気口設置）
- 地下室など湿気がこもり易い場所やコンクリートが完全に乾燥していない場所。
- 床下と地面が300mm以下に近接する場所。

<空調設備について>

- エアコン等の冷暖房機器や換気システム、全館空調システムなどを使用する場合、吸排気の風が床面に直接当たらないようにして下さい。過度の乾燥により材の収縮・反り・割れの原因となります。

<湿度について>

- 過度の乾燥によりヒビ割れ・反り・収縮による隙間が生じたり、過度の加湿により膨張による不具合が生じる事がございますので湿度は40~60%を保って下さい。

商品の取り扱い

- 湿度の高い場所、換気が不十分な場所、直射日光の当たる場所での保管は避けてください。保管する際は、反り・曲がり・損傷の原因となりますので、絶対に立て掛けず平置きで保管して下さい。
- 水濡れの可能性がある環境への施工はお控え下さい。配管周りや開口部の結露にもご注意下さい。

施工前の確認事項

[施工後の交換・保証不可]

- 商品に不良品や傷・色等の不具合点がございましたら、必ず施工前にご相談ください。
※施工後の交換・保証は応じられません。
- 下地の水濡れがない事・下地の乾燥が十分である事（含水率12%以下）を予め確認して下さい。
- 施工2~4週間前（無垢材）には開梱しフローリングを出来るだけ広げ施工現場環境に馴染ませてから施工して下さい。

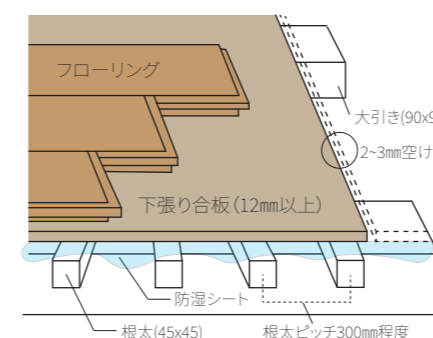
フローリング施工に於いての禁止事項

- 釘打ちの際、フィニッシュネイルは絶対に使用しないで下さい。（ヘリンボーンは除く）
- エンドマッチ部分に釘打ちをしないで下さい。
- 木工ボンド（酢酸ビニルエマルジョン系の接着剤）は使用しないで下さい。
- 接着剤は実部分に入らないようにして下さい。
- 捨て貼り（下張り）合板は厚さ12mm以上の1類又は特類の構造用合板を使用して下さい。（MDFは不可）
- 壁際のクリアランスは必ず5ミリ以上（無垢材）3ミリ以上（複合）確保して下さい。
- フローリングに直接養生テープを貼らないで下さい。
- フローリングに水拭きはしないで下さい。
- RC工法の場合、コンクリートスラブやモルタルの含水率が4%以上の場合は施工をしないで下さい。
- 接着剤はフローリングの裏面に塗布して下さい。床下地への塗布はしないで下さい。
- 遮音マットへの直張りはしないで下さい。
- 2重床への施工の場合、パーティクルボードへのフローリング直張りは止めて下さい。
必ず12mm以上の構造用合板を下張りして下さい。

下地施工のポイント 捨て貼り（下張り）釘打ち工法の場合

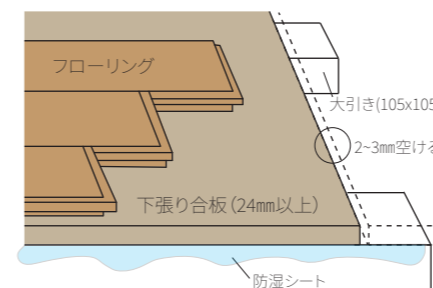
- 床下地は段差の無いようにして下さい。（1mm以下）
- 施工前に床下地は十分に清掃し、表面のゴミ・油などを取り除いて下さい。
- 床暖房を使用する場合は、下記下張り合板の上に熱源体（温水マット・暖房パネル）を施工して下さい。

捨て貼り釘打ち工法（根太有り）※捨て貼り（下張り）合板：構造用合板12mm以上



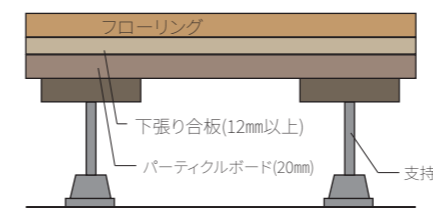
- 大引き90mm角以上、根太は45mm角以上の乾燥材（含水率15%以下）を使用し、プレーナーをかけ平滑に仕上げてください。
- 根太は、釘保持力の良い、乾燥米松かアピトンが最適です。シロアリの被害も起きにくくなります。
- 大引き間隔は909mm、根太間隔は303mmとし、レベル（水平）を出して施工して下さい。
- 必ず合板の捨て貼り（下張り）をし、合板は12mm以上の構造用合板を使用してください。
- 下張り合板の間は、2mm程度あけて施工してください。
- 下張り合板の上に、根太の芯位置を墨打ちしてください。
- 0.1mm厚以上のポリエチレン防湿シートを根太と下地合板の間に敷込み施工してください。

捨て貼り釘打ち工法（根太無し）※捨て貼り（下張り）合板：構造用合板24mm以上



- 大引き105mm角以上の乾燥材（含水率15%以下）を使用し、プレーナーで平滑に仕上げてください。
- 大引き間隔は910mmとし、レベル（水平）を出して施工してください。
- 必ず合板の捨て貼り（下張り）をし、合板は24mm以上の構造用合板を使用し、構造用合板とフローリングが直交するように張り込んで下さい。（構造用合板の含水率は12%以下）
- 下張り合板の間は、2mm程度空けて施工してください。
- 0.1mm厚以上のポリエチレン防湿シートを大引と下地合板の間に敷込み施工してください。

捨て貼り釘打ち工法（二重床工法）※捨て貼り（下張り）合板：構造用合板12mm以上



- ベースパネル（パーティクルボード）に直交するように12mm以上の構造用合板を必ず捨て貼り（下張り）して下さい。
- ベースパネルの目地に釘打ちすると床鳴りの原因になります、目地は避けて固定して下さい。
- 下張り合板の間は、2mm程度空けて施工してください。
- RC構造の場合は、必ず0.1mm厚以上のポリエチレン防湿シートを敷き込んで防湿対策を施してください。コンクリートからの湿気がフローリングの膨張の原因となります。

Construction Guide / 施工ガイド

フローリングの貼り込み

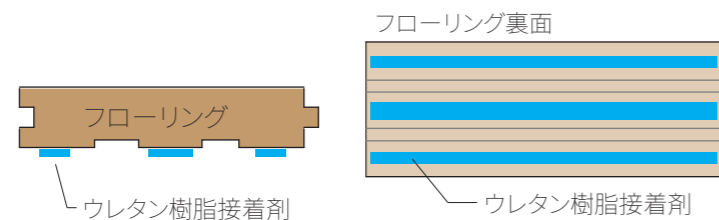
① 仮並べ・割り付け

- 天然木は色調や木目が単一でない為、仮並べを行ってください。
- 下張り合板の継ぎ目とフローリングの継ぎ目が重ならないようにご注意ください。
- 短辺部（エンドマッチ）のジョイント部が根太上にくるように割り付けをしてください。
- フローリングは根太と直交するように割り付けしてください。

② 貼り込み

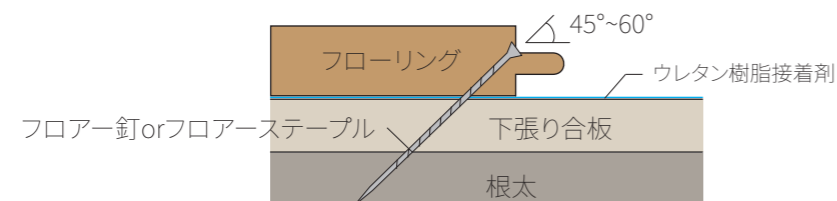
<接着剤の塗布>

- 接着剤は1液型ウレタン樹脂接着剤（参考：コニシ(株)KU928C-X等）を
 - ①釘の通過点②材の中心③雌実のやや内側の3箇所に筋状に塗布して下さい。
- 絶対に酢酸ビニル系、木工ボンド系は使用しないでください。
- 接着剤が硬化するまで（24時間以上）上に乗らないで下さい。
 - ※サネ部分には接着剤を絶対に付けないで下さい。



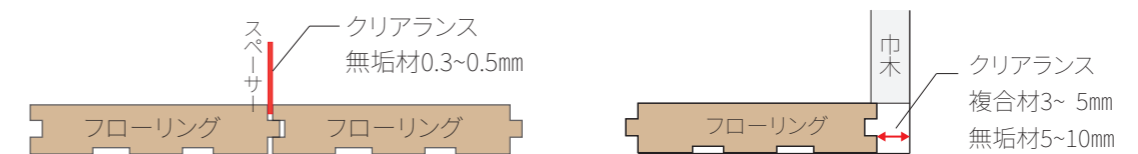
<釘の打ち込み>

- フローア釘（38mm以上）、又はフロアステーブル（38mm以上）と接着剤を併用して施工して下さい。
 - 釘の長さは板厚の3倍のものを使用し雄実の付け根から斜め45°~60度で根太に入るよう打ち付けて下さい。
- 硬い樹種は雄実部の釘打ち箇所にあらかじめ直径2mm程度の導き穴を開けると、割れを防止出来ます。



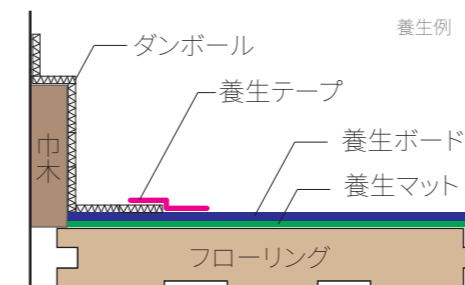
③ クリアランスの確保

- 天然木は湿度により伸縮しますので気候条件・季節・室温などの影響を考慮して施工して下さい。
 - 特に無垢フローリングは湿度で動きますのでスペーサーでクリアランスを確保して下さい。通常は名刺1枚分程度（0.3mm程度）の隙間、冬場（乾燥時の施工）は0.5mm程度の隙間をとって下さい。複合フローリングは無垢フローリングに比べると動きは少ないですが施工時期に応じて調整して下さい。通常は軽く触れているか空いている程度で冬場の乾燥時期は気持ち空け気味で施工して下さい。
- スペーサーは接着剤が乾くまで抜き取らないで下さい。
- 壁際は必ず壁際から3~5mm（無垢材は5~10mm）程度のクリアランスを空けてください。（地下室や湿気の多い場所・地域では更に隙間を取ってください）
- 敷居、ドア枠、框等と平行する部分にもスペーサーを用い、0.5mm程度のクリアランスを必ず設けて下さい。両端が敷居などの場合は、それ以上の十分なクリアランス確保が必要です。
- 掃きだし窓のサッシや浴室サッシとの接合部分は結露などによる水濡れの可能性が高い為、端部・木口にタッチアップ用の塗料を塗り、しっかりと防水処理をして下さい。



④ 養生

- 床面の塵・ホコリ・粉などを掃除機で綺麗に吸い取った後、傷・汚れ・日焼けを防ぐために養生マットの上に養生ボードを重ね張りし施工面全体を覆い隠して下さい。
- 塗装の種類に関わらず、養生テープをフローリングに直接貼らないで下さい。塗装剥がれや粘着剤が付着し汚れや変色の原因となります。
 - ※止む得ず養生テープを貼る必要がある場合は、弱粘着力養生テープを使用し短時間で剥がして下さい。剥がす際はゆっくりと剥がして下さい。



⑤ その他

- 最後の一行は、1週間程度期間をおいてからの施工が好ましいです。
 - 施工後のフローリング材の動きを調整出来ます。
- エアコン等の冷暖房機器や換気システム、全館空調システムなどを使用する場合、吸排気の流れが床面に直接当たらないようにして下さい。過度の乾燥により材の収縮・反り・割れの原因となります。

Construction Guide / 施工ガイド

低温床暖房対応フローリング施工時の注意点と施工方法

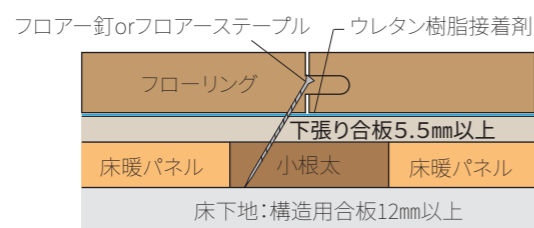
※必ず床暖房対応フローリングをご使用下さい。

<対応可能な床暖房設備について>

- 床暖房設備は必ず温水式・電気式共に低温式床暖房（熱源温度55℃まで）をご使用下さい。
- フローリングの表面温度は27℃以下となるようにご使用下さい。
- 部分的な床暖房は避け、床面全体・部屋全体の暖房として下さい。

<下地について>

- 303mmピッチで釘を打てる床暖房システムをご使用下さい。
- 床下地は小根太・熱源の下に床として十分な強度を持つよう12mm以上の構造用合板を使用し段差が出ないように仕上げして下さい。
- 床暖房パネルの上に5.5mm厚以上の構造用合板（含水率12%以下）を下張りして下さい。下張り合板は千鳥に貼り2mm程度空けて床暖房パネルの小根太部分に釘止めして下さい。
- 下張り合板に小根太の位置を記しておき、床暖パネルを傷つけないように注意して下さい。



<施工について>

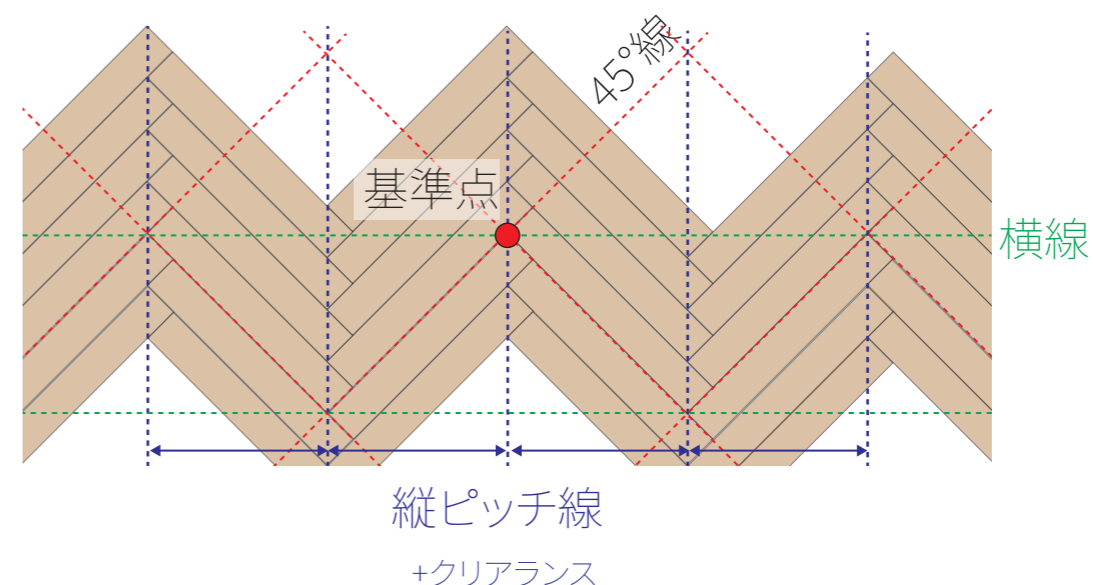
- 施工は必ずフローリング釘orフローステープルと接着剤を併用して下さい。
- フローリングの縦方向の継ぎ目が小根太の上に来るように施工して下さい。
- フローリングの貼り方向は床暖パネルの小根太と直交するように張って下さい。

<施工後の試運転について>

- 床暖房の運転はフローリング施工完了後2日以上養生の後に開始して下さい。
- 試運転の際は、必ず養生マット・シート等フローリング上の物を全て撤去し、こもり熱が生じないようにして下さい。
(他作業での養生毛布等もご注意下さい、こもり熱によりヒビ割れ・反りの原因となります。)
- 床面表面温度が27℃以下になるように温度調節コントローラーで調整し、低温での連続運転をして下さい。
- 室内の湿度は40～60%を保ち、エアコン等を併用する際は加湿器などを使用し調湿して下さい。
(乾燥によりひび割れや反り・収縮による大きな隙間が生じる原因となります。)

ヘリンボーンフローリングの施工上の注意点と施工方法

- 張り込みの基準となる線を下地に墨出しをしてから施工して下さい。
- 壁間の中心から墨出しをし左右が均等になるように割り付けをして下さい。
(端材の長さに応じてズラす必要がある場合は調整して下さい)
- 床の形状や面積にもよりますが壁際等で斜めにカットする為、通常よりもロス率を多くみて下さい。
- 縦ピッチ線の算出式：縦ピッチ線＝フローリングの長さ÷1.414
施工の季節や材料に応じてクリアランスを足して下さい。
- フローリングサイズの長辺の長さが短辺の長さで割り切れないサイズの場合、1本の45°線上に並ばないので縦ピッチ線毎に45°線を出して張って下さい。



直貼りフローリングの施工上の注意点と施工方法

- モルタルの不陸は1mにつき3mm以内であることを確認してから施工して下さい。
- モルタルの乾燥度は含水率10%以下で施工して下さい。水分が高いと乾燥により亀裂が生じフローリング間に隙間や目地違いなどの不具合が生じる恐れがあります。
- モルタルが平滑で無い場合は、ワイヤブラシ付きポリッシャー等で表面の残留セメントや異物を除去して下さい。
- 施工前には掃除機やホウキで下地表面を清掃して下さい。
- エポキシ樹脂接着剤か直貼り用ウレタン樹脂接着剤を使用して下さい。
参考：コニシ（株）E350R / KU928R 等
- 部分塗布を避け、クシ目コテ等で下地全体に塗布して下さい。
- 施工後はバリウエイト等の重しを1日以上置き下地材と床材の間の空気を完全に抜いて下さい。
- 養生中に足場・重量物を置く場合は必ず合板などを敷き一点に荷重がかからないようにして下さい。

Maintenance / お手入れ方法

塗装の種類によってクリーニング方法が異なります。必ず塗装の種類をご確認下さい。

塗装の種類	UVウレタン塗装	ウレタン塗装	オイル塗装	UVオイル塗装
	コーティング系塗料		浸透系塗料	
質感・手触り	表面にウレタン樹脂などの塗膜を作る塗装方法。木の質感は薄れますが、水や汚れに強くお手入れが楽です。		塗料を木材に浸透させる塗装方法。表面に塗膜を形成しない為、木の質感を活かす事が出来ます。	
傷・汚れ	コーティング感のあるつるつとした手触り		木そのものの質感を活かした、さらつとした手触り。	
日々のお手入れ	<ul style="list-style-type: none"> ●表面の塵やほこりを掃除機などで除去して下さい。 ●固く絞った雑巾で水拭きして下さい。 ※水を撒いてモップをかけたり、しっかり絞っていない雑巾での水拭き、スチームモップ(水蒸気式クリーナー)は、フローリングの膨張・反り・割れの原因となる為、厳禁です。		<ul style="list-style-type: none"> ●表面の塵やほこりを掃除機などで除去して下さい。 ●雑巾・ドライタイプのフロアワイパーで乾拭きして下さい。 ※水拭きは毛羽立ちや白濁の原因となりますのでお控え下さい。 ※化学薬品を含む市販の掃除用品はご使用しないでください。 ※スチームモップ(水蒸気式クリーナー)は、フローリングの膨張・反り・割れの原因となる為、厳禁です。	
頑固な汚れの落とし方	<ul style="list-style-type: none"> ●中性洗剤を水で希釈して固く絞った雑巾で汚れを拭き取り、直ぐに乾拭きをして下さい。 ※メラミンスポンジなどは塗装が剥がれてしますので使用しないで下さい。 ※化学雑巾をフローリングの上に放置すると変色する恐れがあります。		① サンドペーパーで汚れを削り落として下さい。 ◆#180→#240→#320のように徐々に番手を細かくして仕上げして下さい。 ② 削り粉を掃除機等で除去して下さい。 ③ 削った部分に同色のオイルを塗布して下さい。 ◆擦り込むように塗り、最後に乾拭きで十分に拭き取って下さい。 ※日焼けや経年による変色があるので同色の物を塗布しても周囲のフローリングと色が合わない事があります。	
定期的なお手入れ	<ul style="list-style-type: none"> ●不要 ※塗膜とワックスが密着しない事があり下記等の不具合の原因となります。 :ワックスの粉化現象 :光沢や塗膜強度の低下 :ワックスの剥離作業により床材塗膜が損傷する :床の膨れ・ヒビ割れ・変色する どうしても表面の状態が気になり、ワックスをかける必要がある場合はリンレイの「ハイテクフローリングコートつや消し20/40」をお試し下さい。既存の塗装よりも艶が出てしまう場合がありますので目立たない場所で試し塗りを行ってご確認下さい。		<ul style="list-style-type: none"> ●1年に一度、植物性オイル(クリア色)を塗布して下さい。 よく歩く部分など木材が乾いたようにパサパサとした見た目になっている部分を重点的に行って下さい。 家具の下など、普段触れない部分は過度に塗布する必要はありません。 参考オイル:リボス自然塗料(カルデット/クリア色) 着色してあるフローリングで色が剥げ落ちてしまっている場合は、同色の塗料を塗って下さい。 ※市販のワックスは使用しないで下さい。	
ヒビ割れ 凹み傷 が生じた	<ul style="list-style-type: none"> ●補修業者にお問い合わせ下さい。 難しいのでご自身での補修は避けられた方が好ましいです。 どうしてもご自身で補修される場合は、様々な補修材料があるので各補修材料の説明に従って補修して下さい。		<ul style="list-style-type: none"> ●補修業者にお問い合わせ下さい。 ご自身で補修される場合は、様々な補修材料があるので各補修材料の説明に従って補修して下さい。	
毛羽立ち が生じた	_____		●食器洗い用のスポンジの硬い面で擦ってみて下さい。	
石膏ボードの粉 や埃が付着した	●硬めの歯ブラシで粉や埃を掻き出して下さい。		●硬めの歯ブラシで粉や埃を掻き出して下さい。	
塗装後の ベタつき が取れない	_____		●塗装後の乾拭きが不十分か、塗布量が多すぎた可能性があります。ベタつきが無くなるまで乾拭きを行って下さい。	
虫が発生した	●多くの場合はヒラタキクイムシですが、その場合ノズル式の殺虫剤を虫食いの穴の中に噴霧して下さい。広範囲の場合は専門業者に連絡して下さい。			

※タフフローリングは塗装では無いですが、お手入れ方法は同じのなので記載しております。

Product Guarantee / 保証について

- 製品の到着後、数量・仕様・破損を必ず御確認下さい、万一損傷又は著しい変形や変質がある場合は直ぐに御連絡下さい。
- ご連絡の際は必ず画像を撮って送って下さい。
- 施工後の保証は一切致しかねますので必ず施工前にご確認下さい。
- 保証対象の製品に関しましては返金・交換のいずれかの対応をさせていただきます。
- 保証対応は損傷又は不備のあった製品のみとなります。
ロット差により生じる色違い・木目のバラツキ・若干の反り等は対応しかねますので御了承下さい。

以下の場合には保証致しかねますので御了承下さい。

- ◆施工後に生じた不具合。
- ◆納品後の移動・輸送・不適切な取り扱いや不注意により生じた破損・損傷。
- ◆天変地異(地震・火災・水害等)や特殊環境などによる変形・損傷。
- ◆天然素材に起因する色違い・色むら・木目柄の差。
- ◆天然木材の特性による伸縮、若干の反り・ねじれ、虫の発生、ヒビ割れ。

問い合わせ先
お電話又はホームページよりお問い合わせ下さい

and only 株式会社
03-6261-0518
<https://andonly.co.jp>